

蓄電池「寿命5倍」に

大阪ガスの受託研究開発子
会社KRI（京都市下京区）

は26日、リチウムイオン電池（LiB）の劣化を大幅に抑える「超長寿命」の蓄電池の開発にめどを付けたと発表した。寿命を現在の5倍に延ばす技術といい、電気自動車（EV）の車載用などを見込む。2025年度に試験出荷を始める。

LiBは充放電を重ねると正極と負極の間を移動するリチウムイオンの流れが乱れ、性能が劣化するが、KRIは

大ガス子会社、25年度試験出荷

独自材料で電極の構造を改変し、イオンの流れを長期間均一に保つことに成功した。

一般的な電動バイク用電池の容量に相当する10㌔時の試作品を開発し、KRIの電池試作子会社を通じて実証する。自動車やモバイル機器などの国内メーカーにも供給する。

KRIは、素材や電池メーカーなどと新たな蓄電池の共同開発コンソーシアムも立ち上げた。将来は30㌔時の電池を搭載するEVの総走行距離を現在の16万㌔から80万㌔以上に延ばす目標を掲げる。

KRIは1987年設立。本社と研究室を置く京都リサーチパーク（KRP、下京区）で98年から電池の研究開発を続け、LiB開発でノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏が特別顧問を務めている。

（柿木拓洋）

超長寿命のリチウムイオン電池セルの試作品を手にするKRIの担当者（京都市下京区・京都リサーチパーク）

